

眼で見る世界の森林 (7)



ナンキョクブナ林 (*Nothofagus* forest)

チリには高木種が123種生育しており、フトモモ科15種、マメ科12種、ブナ科が10種1変種となっている。第3位のブナ科の高木種はすべてナンキョクブナ属 (*Nothofagus*) に区分される。チリはアンデス山脈とアタカマ沙漠に囲まれ、植物は周囲との交流が阻害されて進化し、種数は少ないが、特異な種が多いという特殊な植物相を形成している。天然林の面積は134百万haとされ、ほとんどが基本的に固有種によって構成されている。

天然林は12タイプに区分され、このうちナンキョクブナ属が主要構成種となっている森林タイプは *N. obliqua*-*N. glauca* タイプ (面積約184千ha)、*N. obliqua*-*N. alpina*-*N. dombeyi* タイプ (約1,446千ha)、*N. pumilio* タイプ (約3,391千ha)、*N. dombeyi*-*N. alpina*-*Laurelia philippiana* タイプ (約563千ha)、*N. betuloides* タイプ (約1,792千ha) の5タイプであり、天然林面積の55%を占めている。さらに、*Araucaria* タイプと *Alerce* タイプなどにもナンキョクブナは混生していることから、チリ南部に分布する森林のほとんどはナンキョクブナが主要構成種となっているといっても過言ではない。



天然林のうち44%は成熟した森林で、27%は二次林、6.4%は成熟した二次林であり、残りの22.6%は亜高山帯林となっている。ナンキョクブナは第VII州以南に分布しており、低地から山地までそれぞれの種が温度変化に応じてすみ分けている。特に低地～山麓にかけて分布する森林は薪炭材、家具材、パルプ材などに利用され、伐採跡地は農地や牧場に転換されることにより減少し、放置された伐採地は二次林となった。このため、チリに分布しているナンキョクブナ属の樹種のうち *N. alessandrii*, *N. alpina*, *N. dombeyi*, *N. glauca* の4種がIUCNのレッドリストに記載されている。

写真は Puyehue 国立公園の海拔高1,250m付近に生育していた *N. antarctica* 林。林床を占めているのはイネ科の *Chusquia* (タケに似た植物) で、背が低いため日本のブナ林の林床にササが繁茂しているように見える。今回の説明は“Forests and Forestry in the Americas : An Encyclopedia” (<http://wiki.safnet.org/index.php/Chile01>) を参考にした。

斉藤昌宏 (森林総合研究所)

本欄に読者の皆様の投稿を歓迎します。詳細は本号38頁を参照ください。